



正面外観。2階建てでありながら正面軒高を低くし、こどものスケールに近づけると同時に、まちなみへの圧迫感を軽減した

もえしる設計を用いた木造2階建ての保育園 学校法人森友学園 エンゼルキッズ押切

設計監理：大塚謙太郎一級建築士事務所
I・O建築構造研究所

0～3歳児までを預かる名古屋市独自の方式の保育所である。和の雰囲気を取り入れたデザイン、ステージやベンチにもなる階段、受入コーナー方式のスタイル、保育士自身がこどもの感覚に近づく必要があるという考えを形にしたかくれがコーナー、心が不安定になったこどもたちが落ち着ける小部屋、プラスチックではない本物の石や木といった材料を使うこと等、これまで学園が培ってきた「学校法人が考える保育所」を継承し具現化した。もえしる設計を用いた構造を採用し、木造2階建てで準耐火建築物の園舎としたのも、耐火建築物で陥りがちな「施設」的な場ではなく、「おうち」に近い「暮らしの場」を提供するという学園が実践してきたスタイルのひとつだ。存在感のある美しい木肌の独立柱は、21cm角の杉の無垢材である。手洗いは既製品を用いず、低年齢児の体型に合わせた寸法でステンレスで製作したり、VOCやウイルスを分解する性質としてとりとした質感を併せ持つ漆喰壁紙の使用、こどもの生活領域である床面付近の通風を行う地窓を設けること、上階の音を遮る遮音床工法の採用など、上質な暮らしを実現するための工夫で満たされた園舎である。新設園ながら開園後間もなく満員となり、今日もこどもたちの明るい笑顔があふれている。(大塚謙太郎)

所在地	名古屋市西区押切1-9-20	構造・規模	木造 地上2階
建築主	塚本鎮二・学校法人森友学園	敷地面積	382.28㎡
用途	保育所	延床面積	314.67㎡
定員	40人	竣工	2014年3月
設計担当	大塚謙太郎・関口卓也・稲田竜也	撮影	ナックス コーポレーション 池田雅司
施工	カムロ		大塚謙太郎一級建築士事務所

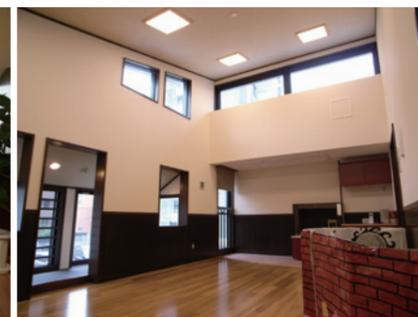
玄関。北向きだが、明るく開放的な場として設えた。床には黒御影の園章が映える



2歳児保育室。もえしる設計による木肌の美しい杉の無垢柱が屋根を支える。中央奥は受入コーナーと幼児便所、間にバスルーフ方式のよごれ物棚を設え、衛生的に管理できるよう計画した。左奥の押入下には、こどもの高さで通風を行えるよう、オペレーターで制御できる窓を設けた



ステージやベンチとして使える階段。中央を左へ下れば、階段下の小部屋へと続く



3歳児保育室。左奥は、天井の低い畳敷のかくれがコーナー。右手の赤い家具は、保育士コーナー



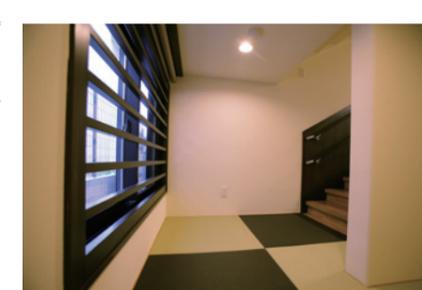
1歳児保育室。開口部は、こどもの高さで自然通風が行えるよう計画した。壁は、マグネット式掲示板を兼ねる



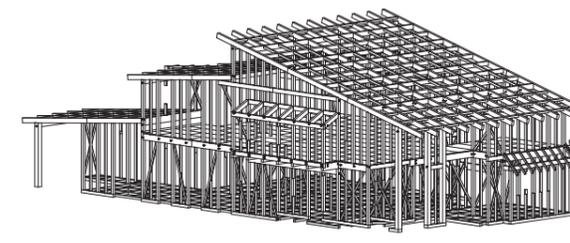
1階平面図 (赤い四角はもえしる柱を示す)



2階平面図



心を落ち着かせる、階段下の畳敷き小部屋。天井高さは約1200。照明は、触れても火傷をしない機種を選定している



架構イメージ図



建築家をめざす
若い人に伝えたいこと⑥

渡辺武信

建築家になるという
強い覚悟を持ち、
広い教養を
身につけてほしい

シリーズ

「建築雑誌がめざす役割」②

「建築文化」元編集長・

田尻裕彦に聞く



「開発」に対峙し、
人間存在を軸に
時代と格闘する
編集のダイナミズム

特集

こども いのち みらい まもりはぐくむ建築



ステキな幼稚園・保育園には
何がある？
現場からの声
征矢里沙
鈴木真廣 井口佳子

こどものいのちをまもること
福島原発事故から3年半。
いわき市の幼稚園では、今
前山成子

いのちを育む・いのちをつなぐ
災害からこどもたちをまもりぬいた保育園
天野珠路

モダンムーブメントを
豊かな建築に
下村憲一

兼松絢一郎が巡る
建築家模様 24



地域
の話題



忠臣蔵の聖地、
泉岳寺の
景観は今…



建築最新事情

こども施設特集

建築集 各地域に拠点を置く
設計事務所の作品集